

実践3 展開1・2でロールプレイを取り入れた授業

具体的場面を想定して役割を演じてみることで、自分自身の問題として深くかかわり、主体的に道徳的实践力を身につけようとする。

主題名	公德のモラル	内容項目	4 - (2)
資料名	缶コーヒー 中学道徳2 明日をひらく (東京書籍)		
ねらい	公德のモラルを大切に、人間として互いの連携を自覚し、より望ましい社会を実現しようとする態度を育てる。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○コーヒー缶が転がって、「わたし」のスカートとノートが汚れてしまったとき、それぞれの人はどんな気持ちだったか、実際に演じて考えてみよう。 ○コーヒー缶が落ちそうになっているときに「OLの女性」と「わたし」はそれぞれどうすればよかったか考えよう。 ◎考えたことをもとに3人で演じてみよう。 		

資料に登場する三者の立場にたってロールプレイをし、気まずい場面を体験した上でどうすればよかったかを考え、その有効性を再度ロールプレイで確かめた。

2度目に演じたときには意欲的に役割に取り組むことができた。生徒は自分が考えたことの有用性を確かめながら、相手に通じる言い方を工夫することができた。

実践4 終末で他の教育活動への発展を図った授業

学校生活で課題が生じたとき、「道徳の時間」で生徒に考えさせたい価値を取り上げることで、自分自身の言動を客観的に見る時間をもつことができる。

主題名	集団生活の向上	内容項目	4 - (4)
資料名	席替え 中学道徳1 明日をひらく (東京書籍)		
ねらい	集団の規律を守る大切さを理解し、協力し合って学級生活の向上に努める姿勢を育てる。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○「わたし」が再度席替えを提案したのはなぜだろう。 ◎クラスや学校の生活の向上のために何が出来るか、自分に出来ることを話し合ってみよう。 		

年間計画にある時期や資料とは異なった扱いであったが、これ以降の学級活動の話し合い活動では、この授業で考えたことを思い出し、建設的な発言をする生徒の姿が見られるようになった。

実践5 終末で視聴覚機器を活用

映像が生徒たちに訴える力は大きい。2年生で、カズの生き方と筆者の生き方の2重構造になっている資料「ロスタイムの続き」(中学生の道徳2 自分を考える 暁教育図書)を使って授業を進めたところ、やはりそれぞれに共感する生徒がいた。中心発問でカズの生き方について考えたあと、終末でドキュメント映像を生徒たちに見せたところ、生徒の多くがカズの夢を追い続ける生き方に自分を重ねてみる事ができた。ねらいにせまるために映像が有効であった事例である。

自分は挫折や絶望でつらいことからさけて(逃げて)いるのに、カズはポジティブに素直にあきらめないで進んでいることに熱いものを感じた。

思いをあきらめないでかなえたカズに感動した。自分も頑張ろうって思うようになった。



(3) 心のノートの活用

① 昨年度からの取り組み

「心のノート」を積極的に活用しようと職員で共通理解を図り実践を行った。

実践1 導入段階の題材として

イラスト、写真や文を用いて主題への関心を高めるために用いた。

主題名	良心のめざめ	内容項目	3 - (3)
資料名	銀色のシャープペンシル 中学生の道徳1 自分を見つめる (暁教育図書)		
ねらい	内なる良心の心を自覚し、自分を奮い立たせることで、目指す生き方に近づこうとする心情を育てる。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○「心のノート」71ページの絵を見て、吹き出しにセリフを入れてみよう。 ○卓也のロッカーにペンを返すことで、問題を解決しようとした「ほく」をどう思うか。 ◎何が「ほく」を卓也の家へ向かわせたのだろうか。 		

71ページ「かみしめたい人間として生きるすばらしさ」の絵を見て、吹き出しにセリフを入れるよう最初に発問した。「ヤッホー」「空がきれいだ」「気持ちいい」など正の感情を絵から感じる発言があった。また、「吸い込まれそう」「自分が小さく感じる」「風が背中から吹いて気持ちいい」など大きな力を感じることができる発言もあった。導入の発問が、自分の弱さと対峙し、良心に耳を傾け自分を奮い立たせる主人公の心情に気づき共感する一助となった。



実践2 展開段階の補助資料として

話し合いの参考資料として、また気づきにくい考え方を知ったりして内容を深めるために用いた。

主題名	望ましい生活習慣	内容項目	1 - (1)
資料名	早朝ドリブル 明日をひらく 2年 (東京書籍)		
ねらい	生活のリズムを整え、望ましい生活習慣を身につける。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○一樹が岡君と話していて、自分がどんどん低い方向へ流されるような不安を感じたのはどうしてだろうか。(「心のノート」16ページ) ○「おい、しっかりしろ一樹。」その後、さらに自分自身を励ますならどういう言葉を言うだろうか。 ◎「あわてず、あせらず、自分のリズムをしっかりつくって、一日一日を着実につなぐ」とはどういうことだろうか。 		

最初の発問後、16ページ「自分で自分をコントロールする」を紹介。道徳の時間では資料中の人物の心情や気持ち中心に追っていきがちであるが、自分自身や、自分自身の生活に重ねて考えることも大切である。ここでは、資料の人物の心情や気持ちを考える前に、生徒自身の生活習慣について問いを投げ掛け、資料中の人物の気持ちに、自身の気持ちを重ねるよう工夫した。

実践3 終末段階の題材として

資料や価値について感じたことを「心のノート」に記録していく。また自分自身について考えたときや新しい出来事に会ったときなどにも記入し、心の成長の記録となるよう用いている。

主題名	理想の実現	内容項目	1 - (4)
資料名	美しい音楽があるから生きていける 中学生の道徳2年 (学研)		
ねらい	佐藤さんの姿を通して、自分自身を見つめなおし、理想を持ち、力強く積極的に自己の人生を切り拓いていこうとする心情を育む。		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○日本を代表する有名なオペラ歌手になった今、佐藤さんはどんな目標を持っているのだろうか。 ○「今苦しむのは苦しみじゃないんです」という言葉には、どんな意味が込められているのだろうか。 ◎苦勞を乗り越える力や努力を続ける力は、どのようにして発揮できるのだろうか。 ○今日の授業で思ったことや考えたことを書いてみよう。(「心のノート」28ページ) 		